



形成外科からのメッセージ

AIの時代でも形成外科医は輝ける

慈恵医大形成外科は国内の数ある形成外科の中でも屈指の歴史を誇る。講座開設当初は手外科を中心として先天異常疾患に取り組んできたが、その後手外科分野に加えて頭蓋顎顔面領域の手術、頭頸部癌や乳がん切除後の再建外科手術、各種皮膚病変に対するレーザー治療などの専門分野が加わり、幅広く形成外科診療を行っている。

特に耳鼻咽喉科や脳神経外科、泌尿器科、消化器外科などの他の診療科との合同手術が極めて多く、形成外科の手術手技を思う存分発揮する機会に恵まれた環境にある。そして4年間の形成外科専門研修プログラムでは専門医資格の取得に必須な疾患の経験はもとより、他大学や小児専門病院との連携によって様々な臨床経験を経験できる大変魅力的な研修体制を構築している。

AIが発展する近未来では医師の働き方は大きく変貌することが予測されるが、オーダーメイド手術を実践する形成外科にとってはむしろそのニーズは高まるばかりである。

“巨人の肩に立てば遠く先が見える”とは先人の残した名言である。我が慈恵医大形成外科では先輩から受け取った多くの経験を、未来あるレジデントに全力で伝えます。

形成外科 診療部長 宮脇 剛 司